

## 国土造りプロジェクト構想 9 ～安全・快適で豊かな国土造りのために～

### 【瀬戸内クルーズネットワーク構想】

～クルーズ文化の浸透と瀬戸内の地域振興～



2022年3月

一般社団法人 日本プロジェクト産業協議会 (JAPIC)  
国土・未来プロジェクト研究会

# 目次 Contents

- 1. 瀬戸内地域の現状と課題**
- 2. 海外におけるクルーズ参考事例**
- 3. 瀬戸内の小型クルーズとは  
－クルーズ推進 3つの提言－**
- 4. 今後の事業展開に向けて**

# 瀬戸内地域の現状と課題



出典：瀬戸内海の環境データベース  
(<https://www.pa.cgr.mlit.go.jp/chiki/suishitu/seto/add01.html>)



提供：岡山県観光連盟



提供：広島県



提供：瀬戸内Finder  
(<https://setouchifinder.com/>)

観光振興の4大要素：気候・自然・食事・文化が充実

# 観光振興による経済効果

## ◆現状の地域経済

観光関連業がGDPに占める割合⇒ 2%

出典：観光庁 旅行・観光産業の経済効果に関する調査研究（2019年度）



提供：岡山県観光連盟

## ◆瀬戸内の観光ポテンシャル

⇒ 観光先進国（スペイン等）並み

GDP比10%の成長が期待

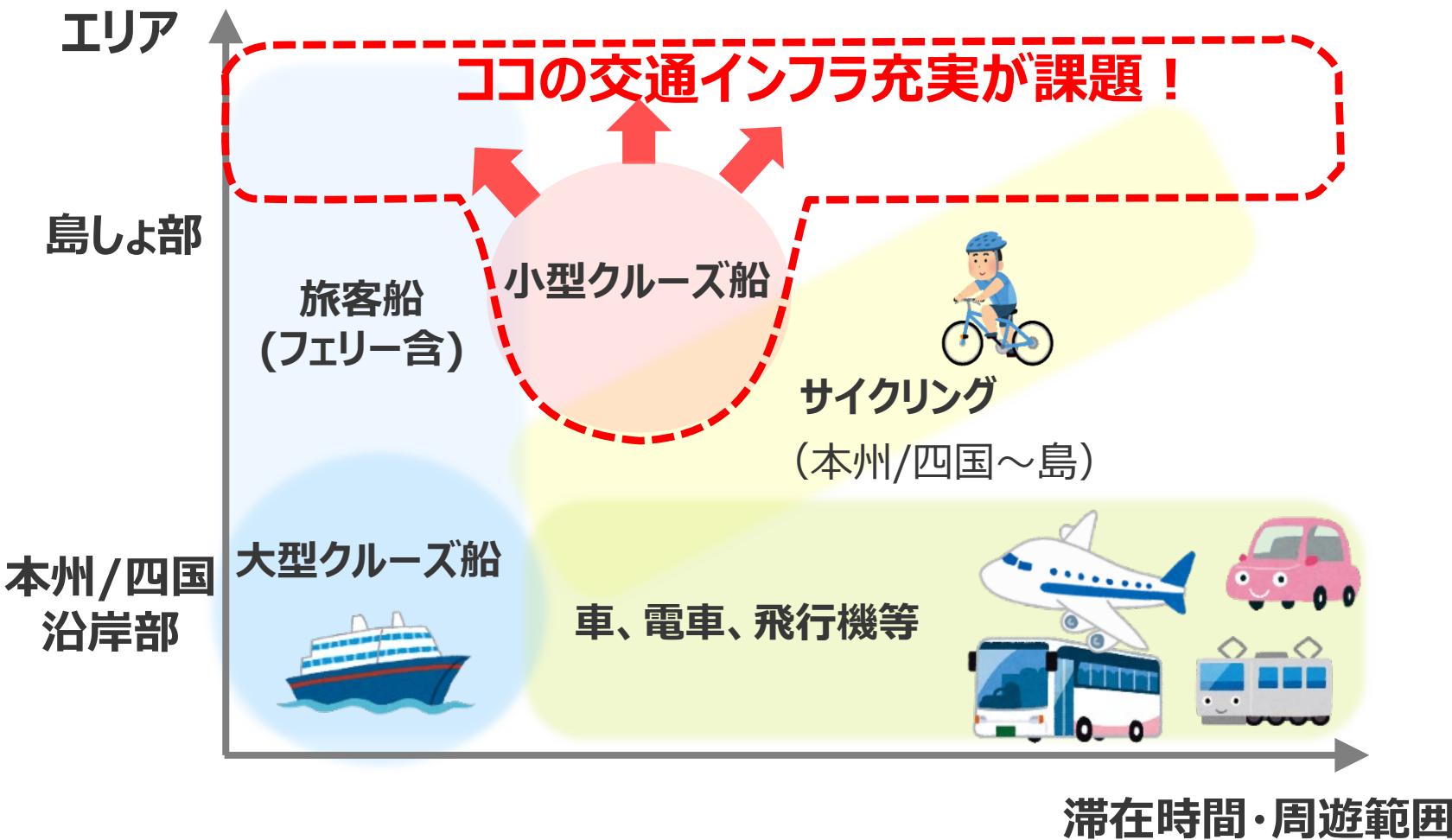


GDP2.5兆円の増加 35万人の雇用創出



提供：photo AC

# 瀬戸内エリアへのアクセス性



瀬戸内の魅力である島しょ部へのアクセス性を高めるには  
**小型船舶**が重要！

# 海外における小型船クルーズ

## ◆ 欧州 リバーカルーズ

7~10日程度を主流にしたプレミアムクラスのクルーズ

移り変わる風景や旧市街の散策

## ◆ ハロン湾クルーズ

乗客数 250万人/年

観光船（船内宿泊不可）:331隻、 クルーズ船（船内泊可）:202隻



提供: Viking Cruises

欧州 リバーカルーズ



提供: iStock

ベトナム ハロン湾

# 瀬戸内の小型クルーズとは

提言1

既存の小型船舶を活用したカジュアルクルーズ  
(課題) 定期航路では多くの島をめぐることが困難

船会社・自治体・旅行会社をマッチングして商品開発  
**「島たびプラットフォーム」**

提言2

プチ贅沢を楽しむ！プレミアムクルーズ  
(課題) 宿泊できる小型船舶が不足

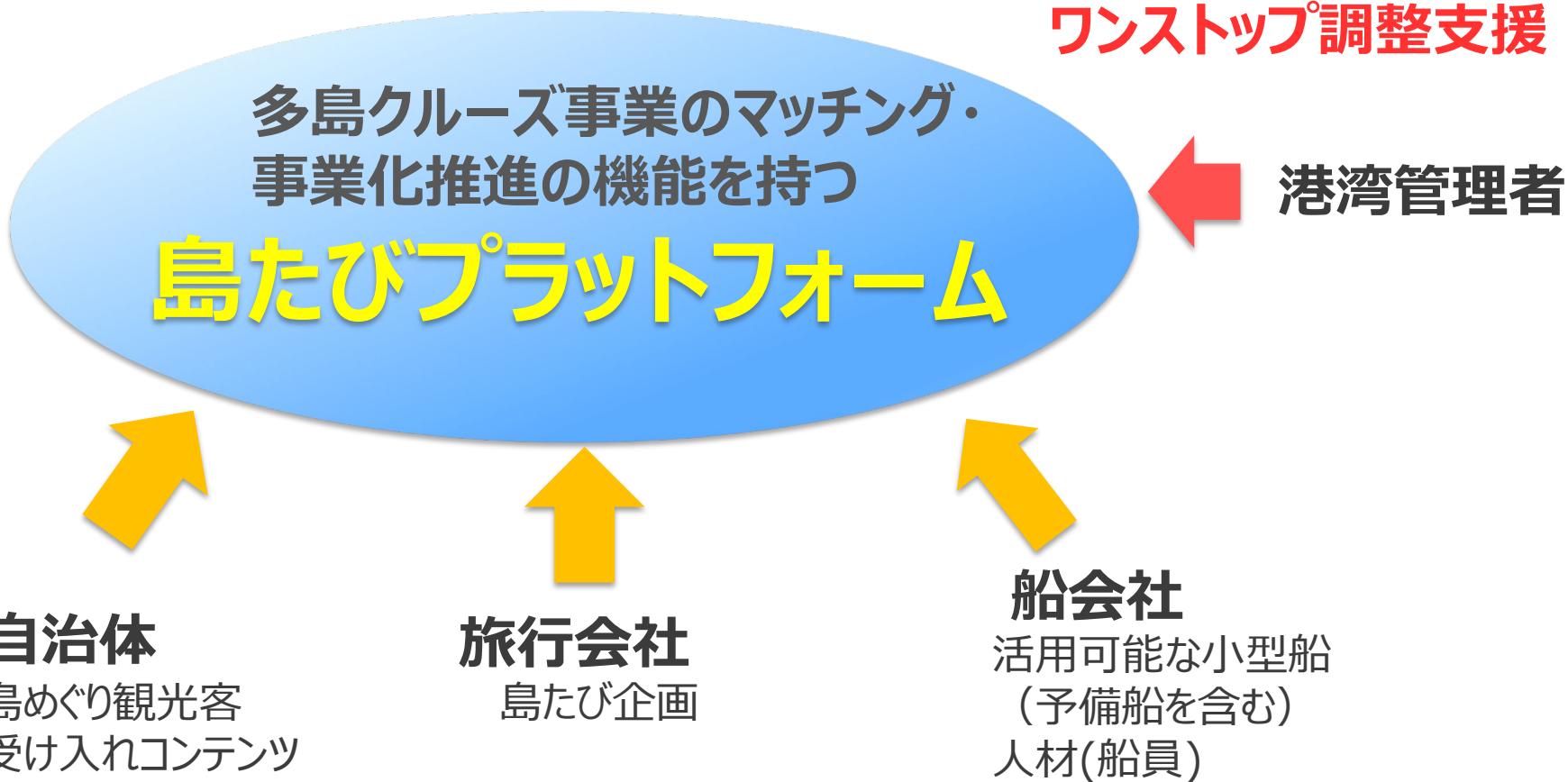
地域でクルーズ船建造・運用 **「せとうちプラチナクルーズ」**

提言3

魅力ある島めぐり！  
(課題) 観光客の受け入れ環境の不足

観光客と住民が共生する **「にぎわいみなとまちづくり」**

◆ 短期間で多くの島めぐりが可能な  
カジュアルクルーズを提供



世界遺産・軍港と海軍カレー・みかんの香りと星空を楽しみ、瀬戸内のハワイでイルカウォッチング！4島をめぐる贅沢な2日間！



出典：NTTインフラネット株式会社

- ・3県をまたぐ航路（乗り換え6回）
- ・定期航路利用では2泊3日



**新規航路で1泊2日に短縮！**

## 提言 2 「せとうちプラチナクルーズ」

欧米インバウンド、国内シニア層をターゲットにした「プレミアムクラス」のクルーズ



- 船の規模：1000トン程度
- 乗客数：100～150名
- 比較的高級なビジネスホテル並みの宿泊設備

## 提案2 地域資本小型クルーズ

### ◆ 経済効果

寄港地：3~4万円/人・日 母港：42.2万円/人・日

・海外＆大型クルーズ寄港効果

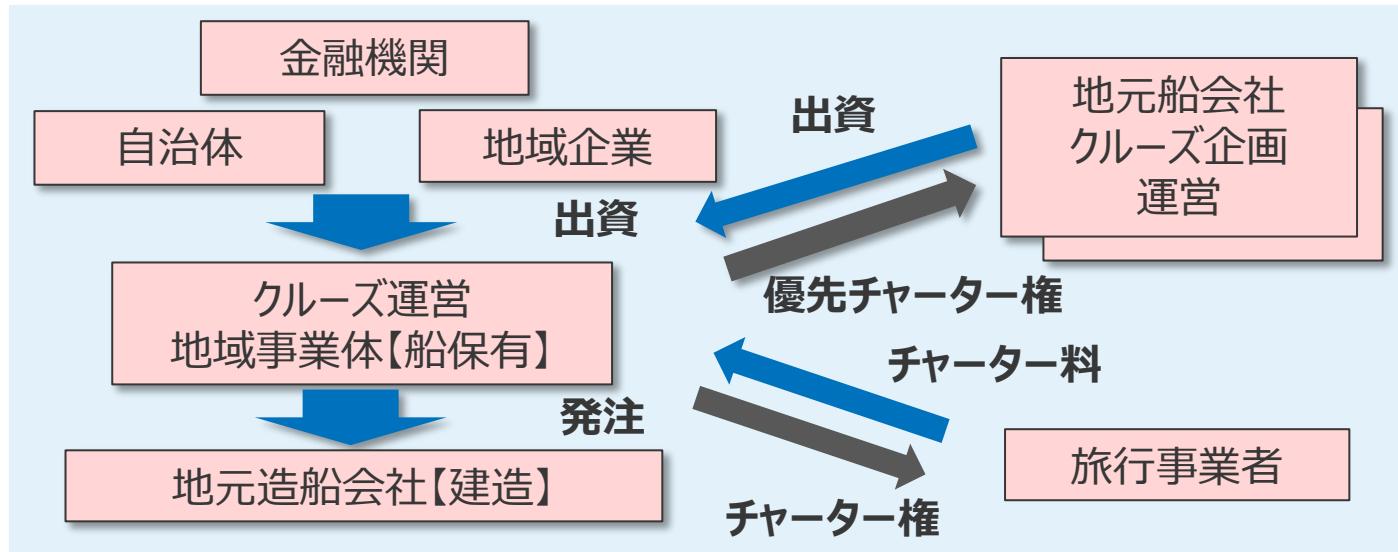
約46億円/年（全寄港分実績試算）

・地域資本小型クルーズ建造＆運行効果

約33億円/年・隻+建造費15億円/隻

試算条件) 1回あたりの乗船者 100人、毎週出港、寄港地は3か所

### ◆ 官民連携企業体＆上下分離方式による事業運営



# 観光客と住民が共生するみなとまち

クルーズ客が期待するみなとまち機能

小型クルーズ寄港を想定したリーズナブルな着岸施設

寄港地の情報をお知らせする情報提供施設

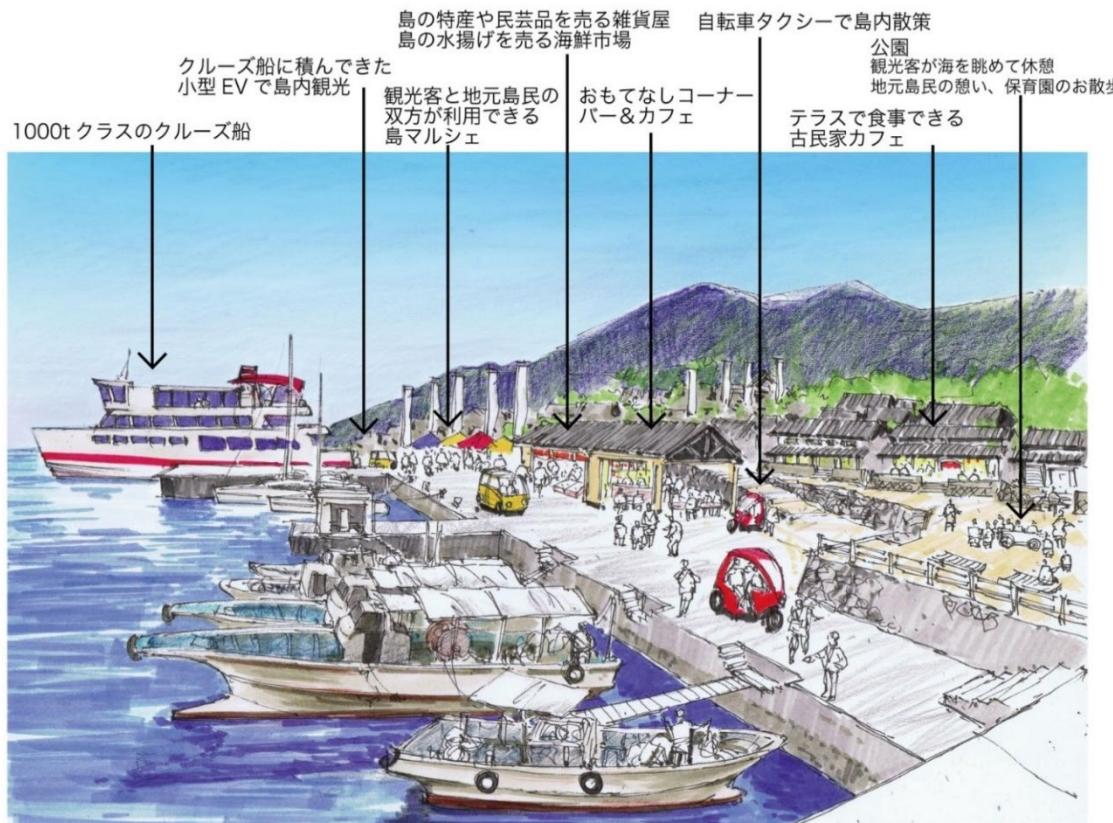
EVカーシェア、レンタサイクルなど2次交通拠点

住民が期待するみなとまち機能

島民・観光客双方が利用する飲食・商業拠点

島民の日常利用が可能な公的施設（公民館/役場/図書館等）

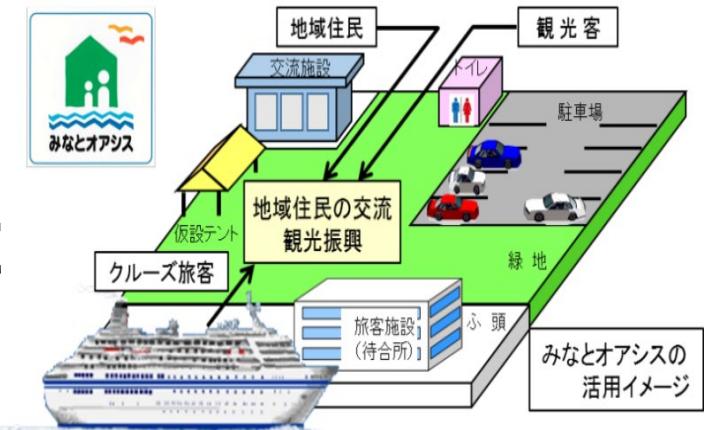
災害時に活用可能なマルチユーススペース（日常：公園、寄港時：受入広場）



# 提言3 「にぎわいみなとまちづくり」を進めるしかけ

## ◆ 「みなとオアシス」の活用

## ◆ 寄港に伴う収入をみなとまちづくりに



みなとまちづくりにかかる  
支援制度の一例

## ◆ せとうち多島美にふさわしい景観形成基準の策定



京都府伊根町

提供: photo AC

# 3つの提言の実現ステップ

## ステップ1 »» ステップ2 »» ステップ3

**提言1**  
島たび  
プラット  
フォーム

WGの設立  
事業モデルの検討  
運営母体の具現化

島たび  
プラット  
フォーム  
の  
設立  
・  
運営

マッチングによる  
新たな多島クルーズ事業の推進

**提言2**  
せとうち  
プラチナ  
クルーズ

事業性  
検討

運営地域事業体の  
立ち上げ、事業化

**提言3**  
にぎわい  
みなとま  
ちづくり

推進方策  
検討

推進協議会の  
立ち上げ、条例化  
国による先行モデル事業  
の実施

# 【瀬戸内クルーズネットワーク構想】

## 検討者名簿

※敬称略

### ■チームリーダー

越智 修 (五洋建設(株) 専務執行役員 土木部門担当)

### ■メンバー

(50音順)

石崎 晶子 (パシフィックコンサルタンツ(株)  
経営戦略室 チーフプロジェクトマネージャー)

塩崎 正孝 ((株)IHI 顧問)

中嶋 さやか (五洋建設(株) ICT推進室 BIM/CIMグループ 担当課長)

水谷 誠 ((一社) 日本建設業連合会 常務執行役)

村田 浩隆 (五洋建設(株) 横浜営業支店 支店長)

吉川 正嗣 ((株) 建設技術研究所 顧問)